

歯科医院における Web 予約システムの構築

015103 澤木 知

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. はじめに

現在、一般的な個人経営の歯科医院では、次の診療予約を取る際に、受付の人間がスケジュール表に手書きで記入する。その際、患者の診察券には予約日時を記入したにもかかわらず、医院側のスケジュール表には記入をし忘れた場合、医院側では把握していなかった患者が来院し、患者に無用な待ち時間を強いるという結果になる。また、歯科医師の治療のキャパシティーは基本的には30分に2名であるが、治療内容によっては30分に1名しか診療できない場合があり、予約を取る際に、医師と予約を取る人間の意志の疎通が悪く、通常通りに予約を取ってしまい、診療に混乱をきたす結果ともなる。

これらの問題は、いずれも情報が一元管理されていないということに起因している。そこで、本研究では、予約を取るという行為を Web 予約システムという形で、医院側から患者側へシフトすることにより、スケジュール表への記入漏れを防止するとともに、診療後、医師自らの手で次の診療内容と所要時間を入力することにより、医師の診療キャパシティーを超えることの無いスケジュールリングができるシステムを構築した。

本システムでは、Web データベースにより、情報を一元管理することによって前記の問題を解決した。

2. システムの機能

本システムは、Apache, MySQL, PHP を用いて構築した。システムの主な機能を図 2.1 に示す。

医院側			患者側
新規患者登録	予約キャンセル	次回診療内容選択	診療日時予約

図 2.1 システムの機能

本システムは、医院側と患者側に大きく分けられる。診療直後、医院側の次回診療選択画面で該当患者の次回診療内容と、その治療にかかる所要を医師が入力し、その後、該当患者は患者側の診療日時予約画面での予約が

可能になる。また、本システムの特徴として、診療の所要時間の登録が行えるが、医院側で登録した所要時間が、患者側の予約画面でどのように反映されるかを図 2.2 に示した。



図 2.2 予約画面

所要時間が30分の患者の場合、すでに予約でいっぱい時間帯のすぐ上の時間帯を予約することが可能だが、所要時間が60分の患者の場合には不可能である。そこで、60分の患者が予約をとる場合には、すでに予約でいっぱい時間帯のすぐ上の時間帯には予約が取れない様、予約ボタンを非表示にした。

5. 評価

本システムを、歯科医師1名、歯科衛生士1名、歯科助手兼受付2名に試用してもらった結果、医院側のミスで、患者を待たせることがなくて良い、患者に次回診療内容を表示するのは親切である、次回診療内容を医師に確かめる手間が省けるという評価が得られた。

4. おわりに

本研究では、歯科受付のスケジュールの記入のし忘れによって、患者を待たせることなく、診療できるという当初の目的を、Web とデータベースによる予約システムの構築により解消することができた。本研究では、患者側のユーザの年齢層が子供から高齢者までであり、煩わしいパスワードを発行せず、患者番号のみで個人を特定し、操作画面も3ページに留めた。これからの課題としては、パスワードを発行し、予約のキャンセルができるようにする事、また、電子カルテと連動させて、患者個人の診療状況を、予約を取る際に表示させるなど、患者が安心して診療を受けられるサービスを提供する事などが挙げられる。